

授業科目等の概要

〔動物管理専門課程 動物看護研究科〕令和5年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			一般教養	社会人として必要な一般知識、人間性の教育を学ぶ。	1通	36	○			○			○	○
	○			パソコン演習	WordやExcel等のパソコンの基本操作を学ぶ。	1通	36		○		○				○
	○			合宿研修《特別授業》	軽井沢研修所で社会人として基本的な団体行動のマナーや、仲間との共同作業を体験する。	12通	72			○	○	○			
	○			生命倫理・動物福祉	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。	1通	36	○			○		○		○
	○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1通	144	○			○		○		
	○			動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。	2通	36	○			○			○	
	○			動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	2通	36	○			○		○		
	○			動物栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	1後23通	106	○			○			○	
	○			比較動物学	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。	23通	70	○			○			○	○
	○			動物看護関連法規	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。	1前	18	○			○		○		
	○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。	2後	18	○			○		○		
	○			動物看護学概論	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1前	36	○			○		○		
	○			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	1後	36	○			○		○		

授業科目等の概要

〔動物管理専門課程 動物看護研究科〕令和5年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			動物薬理学	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	3通	72					○			○	
	○			動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	1 2通	108					○			○	○
	○			公衆衛生学	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	1後 2通	72					○				○
	○			動物内科看護学	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	2通	108					○		○		
	○			動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2通	72					○		○		
	○			動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	1後 2通	36					○			○	○
	○			動物臨床看護学各論	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	1通	140					○		○		
	○			動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	1通	36					○		○		
	○			動物医療コミュニケーション	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	2通	36					○		○		
	○			愛玩動物学	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。	1後 2通	70					○		○		
	○			人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	1通 2前	36					○		○		○
	○			適正飼養指導論	愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	2後	68					○		○		
	○			動物生活環境学	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼育環境の整備、ペット共生住宅、ペットウォッシュ関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。	1通	34					○		○		
	○			ペット関連産業概論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	1通	34					○		○		
	○			コミュニケーショントレーニング	話す・聴く・書くなどコミュニケーション技術の基礎から身だしなみやふるまひを含めた飼主やスタッフ間での接し方を学ぶ。カルテなど情報の記録・管理、電話対応、会計など院内業務について修得する。グリーフケアを理解した飼主対応が実践できるよう学習する。	1 2通	72					○	○	○		○

授業科目等の概要

〔動物管理専門課程 動物看護研究科〕令和5年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物美容学 (器具演習)	基本的なグルーミング技法や道具の扱い方等、基本的な事を学び、実習において実践する。	2 3 通	36			○	○			○	○
○			動物美容実習	器具の使用方法やグルーミングを演習で学び、実習を通じて基本的なベーシックの習得までを目標とする。またサロントリマー検定3級の取得を目指す。	1 2 3 通	180			○	○		○		
○			動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	2 通	36			○	○			○	○
○			動物内科看護学実習	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	1通 2前	216			○	○			○	○
○			動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 2 通	102			○	○		○	○	○
○			動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	2 通	102			○	○			○	
○			動物臨床検査学実習	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。	2 通	318			○	○		○		
○			動物愛護・適正飼養実習	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	3 通	70			○	○		○	○	

授業科目等の概要

〔動物管理専門課程 動物看護研究科〕令和5年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			実践小動物看護実習	手術や外傷で落ちた運動機能・筋力を回復し、QOL（生活の質）を改善できるようにリハビリテーションに関する技術、マッサージ療法や運動療法について習得する。	3通	210				○	○		○		
	○			応用動物看護実習	動物の治療や外科手術が必要となるレントゲンの撮影法・診断法を実際の実習を通し習得する。	3通	102				○	○		○		
	○			臨床検査・画像診断実習	外科動物看護実習を基に臨床で求められる応用力と正確性・迅速性を身につける。動物看護過程に沿った周術期看護の計画と実践を行なう。	3通	36				○	○			○	○
	○			エキゾチックアニマル実習	爬虫類・鳥類・げっ歯類などの動物の生態を理解したうえで適正な飼養、疾病、治療、看護などを学ぶ。	3通	68				○	○			○	
	○			動物管理実習	ポスターセッション、口演など研究の成果を発表する上で必要な、効果的なスライドや図表、抄録の作成、明確に伝える技術を習得する。	3通	120				○	○		○		
	○			動物看護総合実習	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	3通	180				○	○		○		
	○			訓練実習 《必修選択専門科目》	家庭犬訓練士ライセンス取得を目指し、犬についての基礎知識とトレーニング技術の習得を目的とする。	3通	102				○	○			○	
	○			猫美容実習 《必修選択専門科目》	キャットグルーマーライセンス各級取得レベル到達のための技術向上を目指す。	3通	102				○	○		○		

授業科目等の概要

〔動物管理専門課程 動物看護研究科〕令和5年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	ハンドリング実習《必修選択専門科目》	ハンドリングを学び、ドッグショーの仕組み、目的を学ぶ。	3通	102			○	○				
			○	アロマ実習《必修選択専門科目》	精油の正しい使用方法を学び、犬とのコミュニケーションの取り方などを改めて学習する。	3通	102			○	○				
			○	国内研修	国内の動物関連施設を実際に訪れ、学内では経験できないことを自ら進んで体験し、動物分野の理解をより一層深める。	1 2 3通	108			○	○	○			
			○	海外研修	動物分野において先進国である欧米諸国の動物関連施設を訪れ、最先端の技術・施設等を目の当たりにすることで見識を深める。また、日本との違いを直接肌で感じることで自己向上意欲を高め、今後に役立てる。	1 2 3通	216			○	○	○			
			○	校外研修	様々な動物関連施設の実務を体験し、動物関連の業務及び動物の習性・特徴等を習得する。併せて、通常の授業では学ぶことのできない社会の規律を体得する。	1 2 3通	126			○	○	○			○
合計						49科目		3180単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①指定の課程において履修すべき全科目に合格すること。②指定の課程において所定の技能検定試験に合格し、登録すること。③履修期間の出席日数は、80%以上であること。④学習態度を勘案し、人格品性共に社会人としての資質を有すると認められること。⑤納入すべき所定の費用を期日までに全納すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。